

園だより 11月

令和6年10月31日
台東区立田原幼稚園
TEL3842-6477



日々の経験のつながり

副園長 松井景子

先日の田原幼稚園運動会「びっくり森のオリンピック」では、多くの保護者や地域の方々においでいただきました。また、ご来賓や保護者の方からのアンケートでは、我が子の成長の喜びや1, 2年後の姿を楽しみにしている等感想をいただきました。また温かいお言葉、教職員一同励みになりました。ありがとうございました。

運動会に向けて進める中で、今年度は田原小学校と合同で研究を進めていることもあり、教職員が意識していることがありました。それは子供たちの主体的な活動につなげるため、日々どのような関わりや環境を用意していくかということです。また、来年度には小学1年生になる年長児ばら組の姿を中心に運動会への取り組みに焦点を当て、改めて全職員で見つめ直しています。

リレーというと、勝負事でどちらが速いかということに注目されがちですが、子供たちの中では、チームの友達との中で順番決め、勝負後の嬉しい気持ちや悔しい気持ちを乗り越える、分かち合う、様々なぶつかり合いや心情体験が、まさに大事な学びになっています。

思えば1年前の4歳児の時に力強く走るばら組のリレーに憧れをもち、運動会後にリレーに入れてもらって一緒にやった経験もあります。リングバトンを貸してもらえた喜び、一緒に走れる嬉しさで満面の笑みで繰り返し走っていました。その後学級で折り返しリレーを何度も楽しんでいました。3歳児もなんだか走りたくなって、校庭のトラックを何周も走っていました。

そう見ていくと、5歳児の今年になって始まったことではなく、運動面の経験だけでなく、日々の生活や遊び、その中での友達との関わり、心持ち、すべてが3歳児4歳児の経験があってこそその今年の5歳児の姿であることを、私達も実感しました。

今年は保護者競技も行いました。アンケートに「楽しめた」「始めはいらなと思っていたが、子供たちが応援してくれていて、親が一生懸命やっている姿を見せる機会もあってよかった」など、感想をいただきました。おうちの方が楽しそうに、懸命にジャンボリーミッキーを踊っている姿は、子供たちの心に焼き付いたと思います。

応援団も、田原小学校の応援団を見て憧れから「自分達もやりたい!」と始まりました。始めはなかなか大きな声が出なかったですが、「応援団長は1人ではなく、みんな!」という思いを伝えながら毎日取り組んでいました。田原小学校の応援団に何度か園に見に来ていただき、アドバイスや励ましの言葉をもらい、それが大きな自信となりました。誰もが立派な応援団になっていて、嬉しかったです。

運動会は子供たちの生活の1つの通過点です。日々は続き、また次の行事も子供たちの成長した姿をご覧いただく機会になるようにしたいと思います。どうぞ、皆様園にいらしてください。

お待ちしております。

